



Contents

- GSGES Study Tour 2016 on Awaji Island Jul 9-10, 2016
- 2016 UK-Japan Young Scientist Workshop Jul. 18-22, 2016
- GSGES held the 36th Shimadai-juku Jul. 19, 2016
- The 1st Global Sansai Gakurin Konwakai Jul. 27, 2016
- The 38th Symposium of the Association of Kyoto University Environmental and Sanitary Engineering Research Jul. 29-30, 2016
- International Exchange Program Aug. 6-21, 2016
- Vietnam Short-term Study Tour for High School Students Aug. 10-17, 2016
- Awards Jul. 28, 2016
- GSGES Applauds Graduating Students Sep. 23, 2016
- The 9th International Conference on Combustion, Incineration /Pyrolysis, Emission and Climate Change (9th i-CIPEC) Sep. 20-23, 2016
- The 60th Anniversary Ceremony of HUST and Recognition Award for Outstanding Contribution to HUST Oct. 14-15, 2016
- Introduction of the Overseas Organizations Cooperating with GSGES (4): Bogor Agricultural University (IPB)

GSGES Study Tour 2016 on Awaji Island (Jul. 9-10, 2016)

By Koichi Shiwaku, Researcher, GSGES

The GSGES Study Tour 2016 was held on Awaji Island, Hyogo Prefecture, in order to learn about community development, disaster risk reduction, environment, and culture, in Japan. Three doctoral students, two master's students, two research students, and six audit students joined the tour and learn how a community can enhance itself through the utilization of local resources.

平成 28 年 7 月 9～10 日、兵庫県淡路島での研修旅行を開催し、地球環境学舎学生 13 人（博士後期課程 3 人、修士課程 2 人、研究生 2 人、特別聴講学生 6 人）が参加しました。環境に関わる様々な問題を総合的に考える機会として、日本の地域開発、防災、環境、文化を学習することが研

修の目的でした。生田地域活性協議会では、そばを活用したコミュニティの活性化について話を聞き、手打ちそばを昼食として頂きました。野島断層保存館では、実際の断層面を見ることができ、阪神・淡路大震災の被害、災害前の準備及び地域のつながりの重要性を学びました。瓦を製造している大栄窯業株式会社では、ものづくりからことづくりをテーマに、日本文化の追求、企業とのコラボレーション、海外への展開についての取り組みを知ることができました。特定非営利法人ソーシャルデザインセンター淡路では、兵庫県の環境及び地域開発政策について、生の声を聞くことができました。ホテルでは、温泉を堪能し、初日の疲れを癒しました。二日目は、淡路人形浄瑠璃資料館にて、淡路の人形浄瑠璃についての解説を聞

き、実際に人形に触れることもできました。最後の訪問地である淡路島牧場では、バター作りと乳絞りを体験しました。コミュニティが自らの価値を知り、それを活かし、さらに価値を高めていく、内外の人々とのつながりを豊かにし、地域をより良くする、これらが今回の研修のメッセージとな

りました。二日目の昼食後、トマト農家の方がレストランにトマトを持ってきました。お店の方は、ためらうこともなく、「一人一個ずつ持っていき」と参加者にトマトを下さいました。淡路島の人々の心に感動した参加者の一人は後日、自らの国のお茶をそのレストランに送りました。



淡路島でのスタディツアーを楽しむ学生たち

Student's voice

By Muhammad Amin Shodiq, Audit Student, GSGES



I enjoyed this study trip and had a good time along with all the other participants in this program. We met the warm and kind people of Awaji Island, enjoyed a lot of useful experiences, and learned many new things about Japan. We experienced traditional Japanese culture, participated in Japanese community development, and also learned about advanced Japanese technology.

We discovered how Ikuta villagers had enhanced their community through soba noodle production. At the Awaji Puppet Show Museum, we were shown how traditional Japanese art has survived through the ages. At SODA (Social Design Center Awaji), we learned about Awaji-shima community development and ate delicious local food. We saw butter and fresh milk being produced at the Awaji-shima Stock Farm. We learned about the Japanese tiles industry from Daiei Ceramics, Inc., and visited the Nojima Fault Museum to find out more about the Great Hanshin-Awaji Earthquake of 1995.

As a result of this study trip, we gained a new appreciation of how the Awaji-shima people have developed their community and retained their culture, and how they manage their environment sustainably and continue to live in harmony with nature.

2016 UK-Japan Young Scientist Workshop (Jul. 18-22, 2016)

By Narumasa Tsutsumida, Assistant Professor, GSGES



ケンブリッジ大学にて集合写真

The 2016 UK-Japan Young Scientist Workshop was held at the University of Cambridge from July 18-22. Four Japanese high school students were selected to participate through KU ELCAS and Dr. Tsutsumida accompanied them. All students completed their projects successfully in cooperation with UK high school students.

京都大学高大接続科学教育ユニット ELCAS を通じて平成 28 年度日英科学者ワークショップに参加した高校生 4 名を堤田助教が全行程に引率

参加者の声：伊藤さん（堀川高校 3 年生）

私はこのプログラムに参加して、コミュニケーション力の重要性を感じた。ディスカッションのときや講義を聴くときに、英語を流暢に使えない事のように意思疎通ができずに苦労し、周りの人にたくさん助けてもらった。もっとスムーズに英語を理解し、話せたら、もっと深い議論ができたかも知れない。だから、使える英語力を身につけたいと思った。しかし一方で文化交流やレクリレーションのときには、心を通わすのに言葉はあまり重要ではないとも感じた。言語はあくまでツールなのだ。伝えようという気持ちが大切なのだと思う。そして、自分の意見をしっかりと持ち、それを伝える事も重要であると学んだ。驚いた事なのだが、イギリスの学生は教授のお話の途中でも、疑問があれば手を挙げて質問していた。日本は「人の話は黙って聞く」文化なので、私はこの行動に衝撃を受けた。しかし、質問するのは悪い事でない、という雰囲気や、積極的に議論に参加出来るところは良いと思った。

しました。このワークショップは、日英における研究環境の違いを体験させ、多様な科学の世界に触れることで分野横断的な科学的視野・思考力の養成を図ることを目的とし、今年度はケンブリッジ大学で実施されました。用意された計 6 つのプログラムのうち、ELCAS の 4 名は、Radiation and the Environment, Go for Gold!, Radiation and the Environment, Science Communication に参加し、英国人高校生とともに実験・分析から成果報告まで無事に成し遂げました。

この研修を通して、イギリスは人種が多様であるという事にとっても刺激を受けた。私の同室の子はインドで生まれ育ち、ベジタリアンだった。食事の際にはベジタリアン用の食事が必ず用意されていた。アラブ系やアジア系の人もおり、この国ではたくさんの人種の人と触れ合えることができる。不思議な感じもしたが、世界を身近に感じる事ができた。

このプログラムで、私はかけがえのない時間を過ごした。苦労する事もあったが、経験した事が全て新鮮で楽しく、私を成長させてくれたと思う。この取り組みは本当に多くの人に支えられて成り立っているのだから、これから何年も先も日英 SW が続くように私も恩返ししていきたい。お力を貸して下さった皆さんに感謝の気持ちでいっぱい。この経験をいかして、国際的な視野と行動力で、何か社会に貢献できるように頑張りたいと思う。

GSGES held the 36th Shimadai-juku (Jul. 19, 2016)

By Ayako Hirata, Project Associate Professor, GSGES

GSGES held the 36th Shimadai-juku on July 19, 2016. Shimadai-juku is an outreach program that focuses on the close relationship between our daily life and the environment, with reference to such things as water, soil, food and the living environment. Since the Agency for Cultural Affairs was in the process of moving from Tokyo to Kyoto, this particular Shimadai-juku featured the relocation of the Agency and highlighted aspects of Japanese traditional culture and the agency's activities in local areas. We invited two presenters; Mr. Robert Yellin, a Japanese pottery dealer and owner of the Robert Yellin Yakimono Gallery, and Ms. Yuriko Shimooka, an assistant director from the Agency for Cultural Affairs.

第36回の嶋臺塾が、平成28年7月19日(火)に嶋臺において開催されました。嶋臺塾は、先端の地球環境学の成果を京ことばのような地域の生活の言葉で練り直すことで、世界環境都市にふさわしい新たな力のある美意識や生活作用をさぐり、地域に広めることをめざすものです。今回は「京に構える」と題し、文化庁の京都市移転について取り上げました。三才学林長・藤井滋穂教授の挨拶の後、平田彩子特定准教授の司会によりまず洛中から、「京で焼きものと生きる」と題し、陶芸商のロバート・イエリン氏が紹介されました。陶芸商を約30年間続けておられるイエリン氏は、ご自身が日本の焼きものに魅され日本に移り住み、現在京都で焼きもののギャラリーを持つまでに

至った経緯やご自身の日本文化の保全についての考えをお話頂きました。続いて文化庁長官官房政策課課長補佐の下岡有希子氏より、「文化庁が京都で考えたいこと -日本の津々浦々を文化の力で元気に-」として、文化庁の京都移転が決定したことを踏まえ、京都移転のメリット、文化庁にとって何を期待しているのか、文化行政の立場からのお話を頂きました。

嶋臺塾の魅力の一つは、話し手と聴衆の間の活発な質疑応答です。今回も、46名の出席を頂きました。文化庁の今後の活動予定や、日本の伝統文化継承のあり方について多くの意見や質問がだされました。また、イエリン氏、下岡氏によるパネルディスカッションも行われ、日常的に我々が行っている生活での文化の力の重要性、そして焼きものといった日本の伝統文化を維持継承していくためには、職人を消費行動でサポートする重要性についても話し合われました。



第36回嶋臺塾の様子

The 1st Global Sansai Gakurin Konwakai (Jul. 27, 2016)

By Makoto Usami, Professor, GSGES

The 1st Global Sansai Gakurin Konwakai in AY 2016 took place on July 27. Some educational and research projects in operation in the GSGES are to be presented and discussed. The first meeting focused on Environmental Innovator Program: Cultivating Environmental Leaders across the ASEAN Region. The meeting began with Professor Shigeo Fujii's presentation, in which he outlined the historical background and purpose of the EIP. Next, the project-based assistant professor, Dr. Yuji Suzuki, described the teachers, satellite offices, and major events associated with this project in the past. The last speaker was the project-based associate professor, Dr. Ayako Hirata, who focused on the double-degree program. Their talks were followed by a free

discussion session, and all participants shared detailed information about the ongoing project and exchanged ideas on its future development.

初めに、藤井滋穂教授が「海外サテライト形成によるASEAN横断型環境・社会イノベーター創出事業」を開始するにいたった経緯や事業の趣旨について発表されました。次に、鈴木裕識特定助教から、この事業のクロス・アポイントメント教員、海外オフィス、過去の主要行事などについて、紹介がありました。最後に、平田彩子特定准教授が、本事業の中心部分であるダブル・ディグリー・プログラムについて説明されました。3名の発表を受けて、10名の参加者から質問や意見が出され、活発な議論が行われました。

The 38th Symposium of the Association of Kyoto University Environmental and Sanitary Engineering Research

(Jul. 29-30, 2016)

By Kazuyuki Oshita, Associate Professor, GSGES

Co-organized by GSGES, the 38th Symposium of the Association of Kyoto University Environmental and Sanitary Engineering Research was held at the Kyoto University Clock Tower Centennial Hall on July 29-30, 2016. Participants included 165 researchers, practitioners and students in the environmental sanitary engineering field. The symposium comprised a special session on social revolution directed towards a survivable society, a project session on the influence of population decline on environmental facilities, and a general session including 21 presentations on water supply, water treatment, water environment, solid wastes and soil pollution, as well as 17 presentations in a poster session. As a result, the latest information on environmental sanitary engineering was exchanged among all the participants.

地球環境学堂との共催で開催された第38回京都大学環境衛生工学研究会シンポジウムは、環境工学関連分野の最新の研究・実務の成果、その他取り組みについて発表し、意見を交換し、同分野の人材の交流を促進するための毎年開催のシンポジウムです。本年は、7月29日および30日の2日間にわたり、京都大学桂キャンパスCクラスターの人融ホールを中心に、同分野の研究者、実務者、学生計165名が参加しました。

シンポジウムでは、特別講演（コーディネーター：高岡昌輝・京都大学環境衛生工学研究会会長）

として、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターセンター長、京都大学名誉教授（元地球環境学堂長）の内藤正明先生より「“生存可能社会”に向けた社会の変革」と題したご講演が行われました。ご講演では、まず、現在、世界人類が直面する、持続可能性の大きな危機について、地球環境問題と、経済・社会問題の観点から整理されました。また直面する危機を乗り越えていくためには、“生存可能社会”への変革が必須であり、近代の工業発展を主導してきた首都圏を中心とした“先端技術社会”と、長い日本の文化・伝統を引き継いできた地域を中心とした“自然共生社会”のバランスが重要であることが主張されました。

また、続けて、“人口減少社会における環境関連施設のあり方を考える”（コーディネーター：伊藤禎彦・京都大学教授）というタイトルで、企画セッションが行われました。セッションでは、下水道（田中宏明・京都大学教授）、廃棄物処理（高岡昌輝・京都大学教授）、上水道（伊藤禎彦・京都大学教授）に関連する環境施設における人口減少社会の影響や、今後の展望が述べられ、これらの課題について活発な意見交換がなされました。

このほか、一般セッションにおいて、水処理、水環境、廃棄物、土壌汚染、環境管理、および室内環境に関する21件の口頭発表、ショートプレゼンテーションとポスターセッションを組み合わせた17件のハイブリッド発表が行われ、活発な討議が行われました。



特別講演を行う内藤先生

International Exchange Program (Aug. 6-21, 2016)

By Shuhei Tanaka, Associate Professor, GSGES



フエ農林大学にて発表後の集合写真

From August 6-21, 12 undergraduate students and three faculty staff members (Dr. Hitoshi Shinjo, Dr. Yuki Okamoto, and Dr. Shuhei Tanaka) had international exchange activities in Ho Chi Minh, Hoi An, Hue, Danang, and Hanoi in Vietnam.

真常准教授と岡本特定助教と共に、2016年8月6日～21日にかけて、京都大学の1、2回生を中心とした12名の学生を引率し、ベトナム国に国際交流科目の臨地研修を行ってきました。ホーチミン、ホイアン、フエ、ダナン、ハノイの5都市を訪問し、ベトナム各地の都市、農村を訪れてそれぞれの土地の自然環境や歴史、文化と人々の暮らし、その根底にある平和について体感し、深く考える機会を提供する研修でした。山岳部の少数民族の村を訪問した際に、バイクに乗せられた

豚が運ばれ、祭のために調理される様子を見学し、改めて、日々、命をいただいていることを実感することができました。また、現地の高校生、大学生との交流を通じて、実際に使用するための英語学習に興味を頂いた学生や、初めてアジアの途上国を訪問したことに戸惑いながらも、徐々にアジアの活気に慣れていく学生達を見て、今年も臨地研修の価値を再確認できました。フエ農林大学でのフェアウェルパーティの際に、日本の学生のみなさんが披露したパフォーマンスがすばらしく、その事前準備なんかも垣間見ていた私としては、非常に思い出深いシーンとなりました。これも、フエ農林大のアン先生をはじめ、多くのみなさまの長年の積み重ねによって生み出されたものであると思います。継続することの偉大さをあらためて実感することができる旅となりました。

Vietnam Short-term Study Tour for High School Students

(Aug. 10-17, 2016)

By Shigeo Fujii, Professor, GSGES



(上) Quac Hoc 高校での集合写真。国際交流科目の京大学生と一緒に (August 12)。(左下) Tam Giang 干潟をボートに乗って研修 (August 14)。(右下) 採取した試料をホテルで水質分析 (August 10)。

A Vietnam short-term study tour for high school students was conducted by ELCAS (Experienced-based Learning Courses for Advanced Science) under the coordination of GSGES. Twelve high school students joined in this tour, and visited South and Middle Vietnam from August 10 to 17, 2016. The students learned many things in Vietnam such as history, culture and environment through visit

to the War Remnants Museum in Ho Chi Ming City, Vinh Mốc tunnels in DMZ (Demilitarized Zone), a minority's commune in Hong Ha, Tam Giang Lagoon and so on. During the tour, the students conducted water quality measurement of pH, conductivity, hardness, residual chlorine, and coliform group by potable meters, pack test kits, and bacteria test papers in several samples from rivers, and tap waters. In

addition, students of Quoc Hoc High School in Hue joined their tour, and deepened their friendship, exchanging their knowledge. In the last day of the tour, Japanese students gave presentations on their tour experiences in English in front of many students at Quoc Hoc High School High.

京都大学は、「科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム（略称 ELCAS (Experienced-based Learning Courses for Advanced Science)）」の提案で、平成 26 年度から 29 年度の間、高校生を対象にした教育プログラム JST グローバルサイエンススクール事業を実施しています。この中では、基盤コース、専修コースなどのように京都大学内での高校生に、講義・実験実習を体験されるもの他に、高校生を海外につれてゆき、現場経験をさせるコース（国際コース）があり、地球環境学堂がその担当となっています。

国際コースの事業として、平成 27 年年度のベトナム短期研修（平成 27 年 8 月 7 日～14 日）の第 1 回に続く、第 2 回目が平成 28 年 8 月 10 日～17 日の間に同じくベトナムの南部（ホーチミン市）および中部（フエ市およびその周辺）で実施されました。参加者は、平成 26 年度および平成 27 年度の ELCAS 基盤コースを修了し、本研修に興味をもった現役高校生（2-3 年生）で、書類選考、面接で合格した 12 名（男子 3 名、女子 9 名）です。引率は、地球環境学堂の藤井滋穂教授と ELCAS の渡部祐司コーディネーターが担当しました。また、日程は、京都大学の国際交友科目「暮らし・環境・平和ーベトナムに学ぶー」と共通する部分を加え、その同行者である田中周平准教授、

岡本侑樹特定助教および京都大学 1-2 回生 12 名とも交流できるようにしました。

高校生らは、まずホーチミン市に入り、統一会堂・戦争証跡博物館を訪れ、ベトナム戦争の歴史や今もなお残る傷跡について研修を受けました。2 日の夜にフエに移動し、3 日目以降はフエ市およびその周辺をバス等で移動し見学しました。訪問先はフエで周辺では非武装地帯の、国境となっていたダクロン橋、ヴィンモクの地下道等の歴史的施設、Hong Ha 村少数民族の Community House、さらに養殖業の盛んな Tam Giang 干潟他です。その間、見学先の河川水やホテルの水道水などについて、携帯水質測定メータ（pH、電気伝導度）、パックテスト法（硬度、残留塩素）、細菌試験紙（大腸菌群、一般細菌数）で測定し、ベトナムの水環境を調べる調査を体験しました。

また、フエ滞在中は、大学生と一緒に、フエ農林大学を訪問するとともに、ホーチミン初代主席等の卒業したことで有名な Quac Hoc 高校に訪問して同校の高校生とも交流し、異文化理解を進めることができました。最終日には、水質検査・食文化などベトナム滞在中の経験を Quac Hoc 高校にて多数の高校生に英語で報告するとともに、日本語・英語・ベトナム語を交えた活発な質疑がなされました。受講生からは「日本にも取り入れるべきベトナムの文化・制度がある」などの感想が寄せられました。探求成果発表会のあとは、受講生に対しフエ農林大学から修了証が授与されました。その後、フエ農林大学の短期研修コース修了証書を授与の後、ハノイを經由して帰国の途につきました。



探求成果発表会後、フエ農林大学の研修修了証書授与 (August 16)

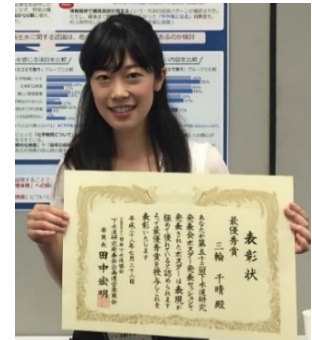
Awards: 第53回下水道研究発表会 最優秀賞

(Jul. 28, 2016)

2016年7月28日に開催された第53回下水道研究発表会のポスター発表セッション表彰式において、環境マーケティング論分野修士課程 三輪千晴さんが最優秀賞を受賞しました。

Chiharu Miwa / 三輪千晴さん

糸満市を事例とした再生水農業利用におけるリスクコミュニケーションの検討



GSGES Applauds Graduating Students (Sep. 23, 2016)

By Yoshihiro Okumura, Assistant Professor, GSGES

On September 23, GSGES held the AY 2016 degree conferment ceremony. One master's course student and three doctoral students received certificates from Professor Funakawa, the Dean of GSGES. The graduates were understandably proud of their achievements.

平成28年9月23日、総合研究5号館会議室において地球環境学舎学位授与式を開催しました。修士課程の学生1名と博士後期課程の学生3名が修了を迎え、舟川学舎長より学位記が授与されました。修了生のみなさまが、社会で大いに活躍されることをお祈りいたします。

Graduating doctoral students

Monsinee Attavanich

(Global Environmental Architecture)

A Study of Living Conditions in Post-Tsunami Houses: The Case of the Moklen Ethnic Minority in Phang Nga Province, Southern Thailand

(津波災害復興住宅の居住環境に関する研究：タイ南部バンガー県における少数民族モクレン族を事例として)

Tran Nguen Quynh Anh

(Environmentally-friendly Industries for Sustainable Development)

Characterization of domestic wastewater discharge and its impact on material flows in urban Hue, Vietnam

(ベトナム国フエ都市部における生活排水の排出特性及び物質フローへの影響)

Sathivamurthi Ramasamy

(Atmospheric Chemistry)

A quantitative approach on understanding emission and removal of trace gases and atmospheric oxidation chemistry in remote and suburban forest

(遠隔域ならびに都市周辺の森林における微量成分ガスの放出・消失および大気酸化過程の理解に向けた定量的なアプローチ)



京都大学地球環境学舎 2016年度学位授与式

The 9th International Conference on Combustion, Incineration /Pyrolysis, Emission and Climate Change (9th i-CIPEC)

(Sep. 20-23, 2016)

By Kazuyuki Oshita, Associate Professor, GSGES

Co-organized by GSGES, the 9th International Conference on Combustion, Incineration /Pyrolysis, Emission and Climate Change (9th i-CIPEC) was held at the Kyoto Research Park (KRP) from September 20 to 23, 2016, with participants of 247 researchers, practitioners, and students in the fields of combustion, incineration, pyrolysis, emission control as well as climate change. The international conference was consisted from the pre-conference workshop on “Challenges in Mercury Waste Treatment/Disposal”, 5 plenary lectures, and 96 presentations in the general session on Municipal Solid Waste Incineration, Coal and Biomass Combustion, POPs control, Pyrolysis, Sewage Sludge Combustion and Ash Treatments, as well as 61 presentations on a poster session. Through the presentation and active discussion, the latest information in this field was exchanged among participants. Finally technical tours, which consisted of 2 courses to environmental facilities in Kyoto, were held on September 23.

平成 28 年 9 月 20 日～23 日、京都リサーチパークにおいて、「第 9 回 燃焼、焼却／熱分解、排出、気候変動に関する国際会議 (9th i-CIPEC)」が地球環境学堂の共催により開催されました。本国際会議は、2000 年に第 1 回が韓国・ソウルで開催され、2002 年に韓国・済州島、2004 年に中国・杭州、2006 年に日本・京都、2008 年にタイ・チェンマイ、2010 年にマレーシア・クアラルンプール、2012 年に韓国・ソウル、2014 年に中国・杭州で、アジア圏を中心に計 8 回が開催され、第 9 回は、日本、京都で 10 年ぶりに開催することとなりました。議長は、京都大学環境安全保健機構・環境科学センター 酒井伸一教授と地球環境学堂 高岡昌輝教授が共同で務めて行われました。

本国際会議の目的は、廃棄物熱処理を中心としたトピックに関連して、世界の研究者、工学者の最新の研究成果や経験を共有するためのプラットフォームを形成し、先進国および発展途上国の環境保全に貢献することにあります。具体的なトピックとしては、都市ごみや産業廃棄物の熱化学的なエネルギー変換（燃焼、焼却、熱分解/ガス化→電気・熱エネルギー等）、リサイクルを主な対象としている。さらに、近年、化石資源の枯渇や、CO₂ 排出削減への対策として再生可能エネル



ウェルカムレセプションでの集合写真

ギーの重要性が高まっており、廃棄物系バイオマスのエネルギー利用技術も対象としています。

参加者数は、9か国から、247名（日本：143名、韓国：47名、中国：38名、タイ：7名、台湾：6名、ドイツ：3名、カナダ：1名、イタリア：1名、ベルギー：1名）でした。

まず、9月20日に水俣条約を中心として世界的にもホットな話題となっている水銀を対象に、「Challenges in Mercury Waste Treatment / Disposal：水銀廃棄物の処理・処分」といったタイトルのプレワークショップが開催されました。そこでは、8名の国内外、国際機関の研究者より、各国の水銀のフローや水銀廃棄物の取り扱いにおける最新の取り組みに関する情報が報告されました。当日は台風が日本を直撃したにも関わらず、70名ほどの参加者がおり、最後に実施したパネルディスカッションでは活発な意見交換がなされました。

9月21日～22日には、i-CIPECの本会議が開催されました。口頭発表は2日間で、4会場で行われ、5件の基調講演のほか、合計24セッションで、廃棄物等の、燃焼、焼却・熱分解や、有害物質の排出、それらが温暖化や健康影響に与える影響に関するトピックを中心として、国内外の研究者や教員、学生から96件の発表がなされました。また、ポスターセッションは、22日の午後に約2時間の枠を設けて、61件の発表が行われました。これらのセッションにおいても、各自の研究成果の熱心なプレゼンテーションと、質疑応答、ディスカッションがなされました。

これらの発表のうち、優れた口頭発表、およびポスター発表を行った若手研究者は、それぞれ Outstanding Oral Presentation（計6名：日本2名、韓国1名、中国2名、タイ1名）および

Outstanding Poster Presentation（計4名：日本2名、韓国2名）として表彰されました。これらの受賞した口頭、ポスター発表は、特に研究が斬新で、その必要性、貴重な成果が的確に聴衆に伝えられていたように感じられました。

最終日の23日は午後から、テクニカルツアーとして、2コースに分かれ、京都市内および近郊の環境施設の施設見学を行いました。Aコースでは、焼却施設を中心として、京都市東北部クリーンセンター：都市ごみ焼却施設と、京都市鳥羽水環境保全センターの汚泥焼却施設を見学しました。Bコースでは、廃棄物のバイオリサイクル技術を中心に、南丹市のカンポリサイクルプラザにおける廃棄物メタン発酵施設と、京都市のバイオエタノール製造実証設備を見学しました。両コースともに、特に海外の研究者からの熱心な質問がなされ、貴重な機会となりました。

本会議は4日間にわたって開催されましたが、すべての研究者が一つの会場に集まり、アジア諸国や欧州の研究者を中心に活発な意見交換や親睦を深めることができました。なお、次回の10th i-CIPECは2018年3月にタイ、バンコクで開催される予定です。多数の研究者の参加を期待します。



(左) 挨拶をする舟川学堂長 (右) テクニカルツアー（京都市バイオエタノール施設、都市油田）

The 60th Anniversary Ceremony of HUST and Recognition Award for Outstanding Contribution to HUST (Oct. 14-15, 2016)

By Shigeo Fujii, Professor, GSGES

The 60th Anniversary Ceremony of HUST (Hanoi University of Science and Technology) and its satellite events were conducted on October 14 and 15, 2016. A series of events started from “the University - Industry Linkage Seminar” in the morning of October 14, and a HUST campus tour in the afternoon and a Welcome Reception in the evening followed it. The 60th Anniversary Ceremony of HUST in the morning of October 15, and all of the events were ended. In these events, many international scholars were invited including Prof. Shigeo Fujii in GSGES, Kyoto University. Many VIPs in HUST attended in the Welcome Reception, such as Assoc. Prof. Dr. Hoang Minh Song, the president of HUST and a vice-president of HUST, Assoc. Prof. Dr. Huynh Quyet Than, and “Recognition Awards for Outstanding Contribution to HUST” were presented to 10 international guests including Prof Fujii.

On October 15, the 60th Anniversary Ceremony of HUST was held with the attendance of many VIPs in the Vietnamese Government, such as the President of Vietnam, Mr. Trần Đại Quang and the Minister of Education and Training, Dr. Phùng Xuân Nhạ. In the ceremony, the president, Mr. Trần Đại Quang gave a Ho Chi Ming’s medal to HUST for its high contribution to Education and Research in Vietnam.

京都大学と教育研究交流協定を全学レベルで締結しているハノイ理工科大学(HUST)の60周年式典および関連行事が、2016年10月14日、15日に開催され、地球環境学堂の藤井滋穂教授が招待され、出席しました。ハノイ理工科大学はベトナムで最初に設立された工学系大学で、地球環境学堂とは2012年の部局間教育研究交流協定と学堂オフィスの設置以降、留学生の受入、インターンシップ生の派遣、共同研究の実施、共同教育プログラムの推進など、積極的に協働しています。

一連の行事は、10月14日午前の University - Industry Linkage Seminar (AUN-SEED-Net 他が主催) に始まり、午後の Campus Tour、夕方の歓迎祝賀会と続き、翌日の60周年式典で終了しました。海外からは、欧米アジア等より、多数が招聘されており、日本からは藤井教授のほか、芝浦工業大学5名、名古屋大学3名、長岡技術科学大学2名が出席していました。

10月14日の歓迎祝賀会では、Hoang Minh Song 学長、Huynh Quyet Thang 副学長ら大学要人らが出席のもと、海外の招聘者が夕食に招待されました。その中で、特別貢献賞(Recognition Award for Outstanding Contribution to HUST)が、藤井教授を含む10名の招待者に授与されました。一方、翌日の60周年式典は、Trần Đại Quang ベトナム大統領、Phùng Xuân Nhạ 教育訓練省大臣ら政府要人が出席し、またテレビ他多数の報道関係者が加わる中、盛大かつ厳かに実施され、ハノイ理工科大学のベトナムにおける重要性が認識されるものでした。その中で、ハノイ理工科大学には、第2回目となる Ho Chi Ming メダル (1回目は創立50周年式典) が大統領より与えられました。



(左) Huynh Quyet Thang 副学長から藤井滋穂教授への特別貢献賞。(右) 祝賀会での HUST 学長 (右から4人目) らとの記念撮影。

Introduction of the Overseas Organizations Cooperating with GSGES (4): Bogor Agricultural University (IPB)

By Andrea Emma Pravitasari, Bogor Agricultural University (IPB)

Introduction of IPB

IPB was established on September 1, 1963, reflecting the visionary thinking of the leader of the nation and all those who shared the goal of establishing a national agricultural university with world-class competence in the field of agriculture, bioscience and various related fields. This was intended to strengthen food security, bioenergy production, job creation, poverty alleviation, and preserving the environment.

Collaboration with GSGES

(1) The Opening of Kyoto University Satellite Office at IPB

To foster collaboration regarding international student exchange mobility (ISEM), IPB (Faculty of Agriculture) and Kyoto University (GSGES and GSA) initiated the Double Degree Program. The Double Degree Program will start in 2016 between IPB (Regional Planning and Landscape Architecture Study Program) and Kyoto University (GSGES and GSA). To support such academic collaboration and assist implementation of the Double Degree Program,

Kyoto University established the Satellite Office at the Faculty of Agriculture, IPB. The opening ceremony was attended by the Rector of IPB, Prof. Herry Suhardiyanto, and the Dean of the Faculty of Agriculture of IPB, Dr. Agus Purwito, on November 16, 2015.

(2) The GSGES Symposium and Workshop on Global Collaboration in Education, Research, and Business in Environmental Studies at Kyoto University

On December 11-14, 2015, GSGES held a symposium and workshop on global collaboration in a variety of fields, as well as meetings on double-degree programs and a study tour. Four delegates from IPB, Dr. Agus Purwito, Dr. Nurhayati Arifin, Dr. Eman Rustiadi and Dr. Andrea Emma Pravitasari, participated. The symposium and workshop were followed on the 13th by meetings of the university staff involved in double-degree programs.



The Opening of Kyoto University Satellite Office at IPB



The Activities of the Spring School Program at Kyoto University

(3) Exchange of Scientific Materials, Publications and Information; Exchange of Faculty Members; Exchange of Students; Joint Research and Research Meetings.

In order to become an internationally recognized research-based center for higher education and a prime mover of agriculture mainstreaming, IPB introduced international collaboration with several reputable universities around the world, such as Kyoto University. The collaboration between IPB and Kyoto University has been strengthened by adoption of the General Memorandum regarding academic cooperation and exchange that was signed on August 28, 2013, at Kyoto University. The academic cooperation activities covered by this agreement include the exchange of scientific materials, publications and information; the exchange of faculty members; the exchange of students; and provision for joint research and research meetings.

To promote collaboration in the field of international student exchange mobility, both IPB and Kyoto University (especially GSGES) have sent selected students to participate in various ISEM programs. In 2015, two students from GSGES came to IPB to conduct internships. Shinji Terawaki (a student from the Terrestrial Ecosystem Management laboratory, GSGES) and Yumika Yoshinaga (a student from the Regional Planning laboratory, GSGES) conducted their internships at the Soil Science and Land Resources Department, Faculty of Agriculture, IPB. Their 3-month internships involved conducting research in Bogor District (Puncak area). During their

stay, they were supervised by a lecturer from IPB. Shinji Terawaki was supervised by Dr. Ir. Arief Hartono, M.Agr, while Yumika Yoshinaga was supervised by Dr. Ir. Ernan Rustiadi, M.Agr.

This collaboration does not just involve students from Kyoto University coming to IPB. In 2016, two students from IPB were selected to join the Spring School Program held by GSGES at Kyoto University. Lutfia Nursetya Fuadina (a student in the Regional Planning Study Program, IPB) and Fibrianis Puspita Anhar (a student in the Environmental Resource Economic Study Program, IPB) stayed at Kyoto University for three weeks. The aim of this program was to take part in measuring the environment. Activities included laboratory visits and field studies related to environmental observations in various parts of Japan (Kyoto Prefecture, Shiga Prefecture and Kumamoto Prefecture).

IPB-Kyoto University GSGES also carried out several staff/researcher exchanges. In 2015, Dr. Syartinilia Wijaya (a lecturer in the Landscape Architecture Department, IPB) was selected as an IPB delegate to participate in the Researcher Mobility Program. She stayed at Kyoto University during 3 months. At the same time, the assistant professor, Dr. Narumasa Tsutsumida (a lecturer in the Regional Planning Laboratory, GSGES, Kyoto University) came to stay at IPB for 3 months. At the end of this period, Dr. Narumasa Tsutsumida presented a Special Lecture describing his research activities. This Special Lecture was attended by the students of IPB.



The internship activity of Yumika Yoshinaga



The Special Lecture of Dr. Tsutsumida

京都大学大学院地球環境学学舎・三才学林 広報誌
SANSAI 第15号
 Newsletter
 2016 (平成28) 年11月1日発行

編集 ● 京都大学大学院地球環境学学舎三才学林
 広報部会 SANSAI Newsletter 担当
 浅利美鈴・奥村与志弘
 発行 ● 京都大学大学院地球環境学学舎三才学林
 TEL: +81-75-753-5630

SANSAI Newsletter is accessible on
 GSGES HP.
<http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/activities/publicity/sansai-newsletter/>